教育を通じて難民の新しい道を拓く
パスウェイズ・ジャパン
PATHWAYS JAPAN

2022年度
年次報告書
2022.04 - 2023.03

代表メッセージ

パスウェイズ・ジャパン

代表理事 **折居 徳正**

パスウェイズ・ジャパンは、2021年7月の設立から2年度目の各事業を無事に終了することができました。ここまでご支援、ご協力を頂いた皆様に心より御礼申し上げます。そして特に、渡邉利三国際奨学金基金設立に一方ならぬご尽力を賜りました渡邉利三様に、深く感謝申し上げます。

振り返ると、設立の1か月余り後にアフガニスタンで前政権が崩壊、翌 2022年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が起こり、団体として両国からの難民等受け入れのネットワーキングと政策提言を進める一方、実際の受け入れと高等教育支援に尽力してきました。

その結果 2022年度は、高等教育支援事業で渡邉利三国際奨学生として9名を採用、また受け入れ・自立支援事業でシリア学生6人、アフガニスタン学生6人、ウクライナ学生 108人を採用し、23の日本語学校と 18の大学に受け入れを進めました。

また、過去に受け入れたシリア留学生 30 人の内、新たに2名が就職、4名が大学・大学院・専門学校への進学を決めました。各事業の詳細は、本報告にてどうぞご確認ください。

紛争等で祖国を離れざるを得なかった若者達が、日本で目標を実現するための道筋＝パスウェイズは、この1年で大きく広げることができました。この道筋をもっと広く、もっと歩きやすいものにするため、引き続き皆様のご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い致します。

Our Vision

誰もが自分の力で
未来を切り拓ける**世界**

Mission

日本社会への受け入れ

難民となり故郷を追われた若者に、安心して生きられる場を提供します。
社会の一員として受け入れられ、尊厳を持って生きていけるよう支援します。

高等教育のための奨学金提供

希望を持って未来を切り拓けるよう、教育の機会を提供します。
日本語学校や大学などと連携をして、高等・専門教育での学びの機会を広げていきます。

難民受け入れの環境や仕組みづくり

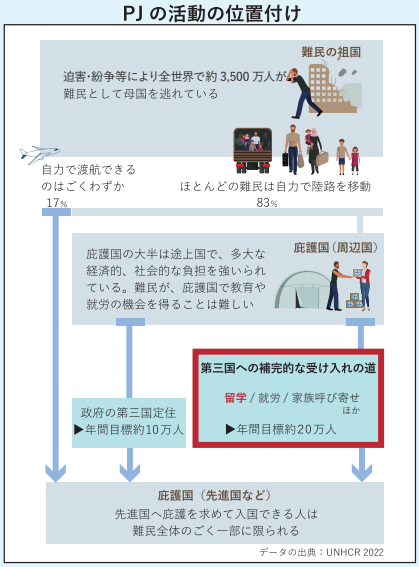
社会全体で難民の受け入れを進め、ともに暮らせる社会をつくります。
さまざまな市民社会のパートナーとともに、難民を受け入れられる体制を整えます。

教育パスウェイズとは

パスウェイズ・ジャパンが取り組む民間主導による難民受け入れは、世界各国の市民団体が中心となり取り組んできた歴史があります。カナダでは、1980 年代のインドシナ難民の受け入れから、民間が主導して、政府と協力して難民を受け入れる「プライベートスポンサーシップ」が行われて来ました。2010 年代以降、紛争や人権侵害により難民となる人々が増え続け、各国政府や国連だけでは十分な対応ができない状況が恒常的になりました。そういった難民を生み出す環境の変化を受け、世界各国でカナダの経験に学び、民間が主導する受け入れを行う動きが拡大してきたのです。そして、国連総会で 2018 年に採択された「難民に関するグローバル・コンパクト」以降、政府による再定住プログラムを補完する道筋として推奨されるようになりました。

パスウェイズ・ジャパンが進める「教育パスウェイズ」は、日本語学校及び大学という教育機関と協働して難民を日本に受け入れる取り組みです。来日後、最低 2 年間は日本語を学ぶ機会を提供することで、大学・専門学校の高等教育への進学、あるいは就職を可能とし、日本社会での自立に至るよう支援を行っています。それは、祖国を追われ難民となった若者が安心して生き延びる道筋（パスウェイズ）と、教育の機会を通じた未来への道筋を提供する活動となっています。

PJ の活動の位置付け



活動ハイライト

高等教育事業では、パスウェイズ・ジャパンでの基金運用を開始し、**シリア、アフガニスタン、ミャンマー出身の9名の奨学生への奨学金供与が決定**しました。

受け入れ・自立支援事業では、パンデミックによる渡航制限が解除されたことから、2022年度以前に採用されたシリア・アフガニスタンの学生も来日が叶い、日本での生活をスタートさせました。2023年度受け入れへの募集にも多くの応募があり、アフガニスタンでは、応募者のうち、現地で高等教育・就業の機会を失った女性が約四分の一を占めており、日本への退避と教育・就業への期待が強く感じられました。加えて、2022年2月のロシアの侵攻によるウクライナでの人道危機に対応して、ウクライナからの難民を緊急に受け入れるプログラムを実施し、108名が日本語学校・大学に受け入れられました。日本社会でも難民受け入れに対する関心と支援が広がり、日本語学校・大学、企業とのネットワークも拡大しています。

シリア

応募：266名
採用：6名
うち1名辞退、1名は2023年秋に来日

アフガニスタン

応募：678名
採用：6名（うち1名辞退）

ウクライナ

日本語学校パスウェイズ
応募：第1次募集 331名、
第2次募集 112名、合計 443名
採用：47名※帯同家族2名を含む

大学パスウェイズ
応募：358名　採用：51名
＜二次募集＞
応募：37名　採用：10名

日本への受け入れ人数

シリア留学生：7名 2021年度及び2022年度選考
アフガニスタン留学生：4名 2021年度及び2022年度選考
ウクライナ留学生：108名 2022年度選考
日本語学校 47名、大学 61名

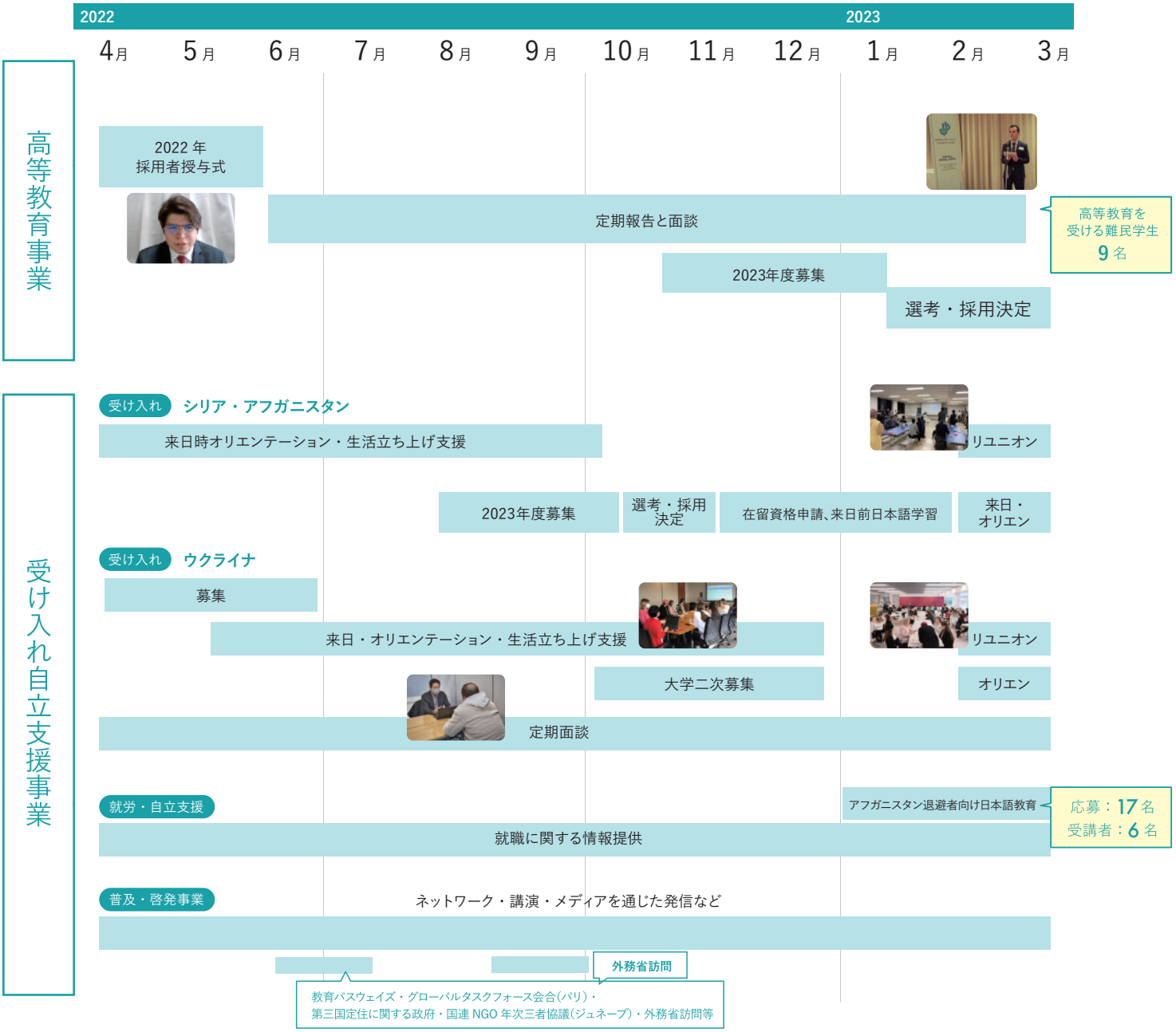
※パンデミックによる渡航制限により過去2年度に選考の学生を受け入れ。
また2022年度選考学生の一部は2023年度に来日。

受け入れ機関

- 18大学
- 日本語学校　23校

受け入れ地域

宮城、千葉、東京、神奈川、静岡、京都、大阪、兵庫、岡山、島根、熊本、沖縄



過去の卒業生の進路

- 就業4名（IT系2名、自動車産業1名、英語教師1名）
- 大学院博士課程1名 ●大学院修士課程4名 ●大学学部5名（理工学部3名、社会学部1名、教養学部1名）
- 専門学校3名（分析化学、観光、IT各1名）※1名は一旦就職の後専門学校入学
- 大学受験準備1名 ●第三国に移住1名 ●トルコに帰国3名

1. 高等教育事業

高い志を持つ難民に高等教育の機会を提供

難民となる困難な経験を経ても学びを続け、将来社会に貢献しようと努力する若者達の高等教育への支援を目的に、寄付者の渡邉利三氏の強いご意思と寛大なご寄付に基づいて「渡邉利三国際奨学金」を設立し、奨学金を提供しています。

従来日本で奨学金応募の機会が限られていた期間限定の在留資格の人々を対象にしており、学費と生活費を支援する返済不要のフルスカラーシップ（金額の上限あり）を提供することで、難民の若者自身が選択する様々な専門分野で、短大から大学学部、大学院まで各レベルの教育機関への進学が可能となります。2022 年度、奨学金基金設立のための 10 億円のご寄付を受領し、資産運用を開始しました。そして、2023 年度の奨学金供与に向けて 2022 年 12 月から募集を開始し、今年度は 37 名からの応募がありました。以上の応募者から選考委員会による書類及び面接による選考を経て、2023 年度は 9 名の奨学生への支援が決定しました。

アブドゥッラハマンさん（シリア出身学生）

私は、子供の頃、テレビで日本のハイテク機械についての番組を見て、日本に憧れはじめました。日本に留学し勉強するのは自分の夢でしたが、シリアの内戦が始まり、勉強を続けることは不可能になってしまいました。希望を失わず、ずっと無理だと思っていたことが現実になり嬉しい限りで、心より感謝しております。

私は、現在、足利大学の工学部で IT や AI について学んでいます。卒業まで知識を重ね、将来は、自分が学んだことを義手や義足に使い、シリアの内戦で手や足を失った人を助けたいと思います。自分の夢を完全に実現するまで、精一杯勉強し進み続けます。

2023 年度渡邉利三国際奨学生

アフガニスタン	男性	経営学部 2 年（会計学）	シリア	女性	社会学部 2 年（心理学）
ミャンマー	男性	工学部 1 年（建築学）	シリア	男性	大学院修士課程 2 年（経営管理）
シリア	男性	理工学部 2 年（工学）	ミャンマー	男性	大学院博士課程 1 年（環境工学）
アフガニスタン	女性	経済学部 3 年（会計学）	アフガニスタン	男性	大学院博士課程 1 年（土木工学）
シリア	男性	工学部 2 年（機械工学）			

難民留学生のメッセージ

イラさん
（ウクライナ）

子供のころから日本にとても興味を持ち、日本語がもっと上手になりたいと思っていました。ロシアの侵略のころ、ウクライナでは安全だと感じませんでした。日本の大学がウクライナの学生に勉強を続ける機会を提供してくれ、日本で勉強を続けることができたのは、よかったと思います。パスウェイズのプログラムの支援者の方々、大学職員の暖かい支援をいただき、感謝をお伝えしたいです。

私はこの 4 月から、龍谷大学で日本語を勉強しています。大学で勉強するのが好きで、大学はウクライナ人学生の勉学と日本での生活の両面で支援しています。ウクライナで弓道をしていて、日本でも弓道をやってみたいとずっと思っていたので、勉強に加え、弓道部にも入りました。

日本で沢山優しい人々に会って、日本人の友達がたくさんできました。京都ではさまざまな史跡を訪れ、地元の人たちと交流することができました。日本の美しい自然に畏敬の念を抱いていて日本での生活が好きです。

日本の大学で学ぶことは、良い知識と経験を得る絶好の機会なので、私は、日本で勉強を続けたいと思っています。現在、修士課程への準備をしており、終戦後のウクライナの発展に役立つ知識を得たいと思います。将来は外交官になり、希望する分野の優れた専門家になり、在日ウクライナ大使館で、ウクライナと日本の関係を発展させたいと思います。

SJ さん（アフガニスタン）

私がパスウェイズ・プログラムに参加した主な理由のひとつであり、私の夢は、アフガニスタンの外で教育を続けることでした。アフガニスタンの社会で女性に保証されるべき教育の権利が奪われた時期に、このプログラムへの応募の機会が与えられました。パスウェイズ・ジャパンから連絡を受けたときは、人生で最高の瞬間でした。以前 JICA で短期契約で働いていた際に、日本式の管理、勤務態度、礼儀正しさ、規律正しさ、時間厳守がとても気に入っていました。

日本に来て、自分のスキルや能力を高め、向上させる機会に恵まれたことを幸運に思います。初めは、文化や食べ物、制度に馴染みがなかったため、少し躊躇しましたが、今は安全や安心を感じることができています。

私は、2 年間の日本語コース修了後、奨学金を申請して日本のトップクラスの大学に入学し、修士課程から博士課程へと進学することを目指しています。その間、さまざまな専門機関と関わり続け、トップマネジメントのレベルに到達したいと考えています。最高の教育を受け、プロとしての人格を養うことで、自分で飛び立つことのできる最も強い女性になろうとするエネルギーが湧いてくると思います。

マイサム .B さん（シリア）

私は、子どもの頃から日本に行きたいと思っていましたが、シリアの戦争により、トルコへ逃れなければならなくなり、日本へ行く希望を失い、トルコでの生活に飛び込み始めました。その後、トルコではシリア人に対する差別が始まり、生活は日に日に悪化していきました。

ソーシャルメディアで、パスウェイズ・ジャパンのプログラムを知り、自分の夢を追いかけられることを願ってプログラムに応募しました。そして今、私は日本にいます！日本にきて 3 ヶ月経ち、語学を学ぶと共に、ずっと知りたいと思っていた興味深い文化を発見しています。

今の気持ちを表す言葉はありません。人生とはそれ自体が挑戦であり、私は多くの困難に直面していることを知っています。だから、私は夢を追い続け、それを達成するための正しい方法に注力していきます。

主な目標は、地盤工学に関して高いレベルの勉強を続け、プログラミングのスキルと土木工学を組み合わせる方法を調査することです。パスウェイズのプログラム、そして支援してくださった篤志家の皆さんに、心から感謝します。この特別な旅路を共に歩んでくださることに、心よりありがとうございます、とお伝えしたいです。

受け入れ事業

ウクライナの学生を対象に緊急募集を実施

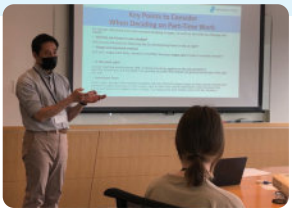
前年度までのシリアとアフガニスタンの留学生の受け入れに加えて、ウクライナの学生についても、年度途中の緊急募集を行いました。緊急募集は、留学の在留資格による受け入れではなく、政府のウクライナ避難民受け入れ方針による短期滞在ビザと特定活動の在留資格によって受け入れるもので、従来と同様、日本語学校で2年間学んで進学・就職に繋げる「日本語学校パスウェイズ」と、1-2 年の日本語教育の後、学位プログラムの提供可能な大学に受け入れる「大学パスウェイズ」の2つプログラムを提供しました。大学パスウェイズでは、他大学の交換留学等で来日し、2023 年 4 月以降に学びの場を失う学生等を対象にした二次募集も行いました。

来日前後に生活立ち上げ、進路選択と自立への道を支援

日本で自立して生活を築いていけるよう、来日前から受け入れ教育機関の卒業まで、一貫した支援を行っています。来日前には、ビザ取得や渡航の支援に加え、来日前日本語学習支援を行い、オンラインおよびシリアの学生にはトルコでの来日前合宿による集中指導も交え、JLPT N5 レベルの学習を進めました。また、来日直前にも渡航前オリエンテーションを実施し、さらに来日後も 5 日間に渡って、日本での生活に関するオリエンテーションを実施しました。

来日後オリエンテーションの内容

- 在留資格　● 行政手続き　● 日本の文化　● 習慣
- 生活関連情報（公共交通機関、自転車、コンビニエンスストア、銀行、電子マネー等）
- 災害・事故への備え　● ジェンダーに基づく事件への備え
- 留学生のキャリア形成　● 留学生のアルバイト
- やさしい日本語での履歴書作成
- アルバイト面接演習
- 難民コミュニティ・支援団体の紹介



シリア及びアフガニスタン留学生の来日に際しては、パンデミック中の中断を経て3年ぶりに、先輩学生のリユニオンを同時期に開催し、さらに、先輩学生による新規来日学生へのオリエンテーションを実施しました。先輩学生は、自らの体験に基づいて日本の文化習慣、イスラム教徒としての食事、アルバイト、日本語習得、経済的に生活する方法、モチベーションの維持方法等について、同国人であるからこそ話せる豊富な体験に基づいた経験を共有しました。

ウクライナ留学生も 2023 年 3 月に約 100 名の学生を集めてリユニオンを行い、日本での生活の振り返り、メンタルヘルスのワークショップ、企業によるプレゼンテーション、ウクライナ大使館による情報提供等の機会を設けました。

難民受け入れのパートナーシップの広がり

受け入れ大学が広がったことを受け、日本教育パスウェイズ・ネットワーク（JEPN）を設立し、毎月オンラインにて受け入れ大学間での情報交換と学生受け入れに関する情報提供を行ったほか、独自にウクライナ学生を受け入れた大学にも本ネットワーク参加を呼びかけ、受け入れ大学間の情報共有を進めました。

また、ウクライナの危機により日本社会での難民の受け入れに関心が高まる中、企業・団体とのパートナーシップも拡大しました。各プログラムに対する寄付・助成に留まらず、オリエンテーション開催時の会場提供、社員ボランティアによるアルバイト面接演習の面接官などオリエンテーションへの実施協力や空港への出迎え等の協力をいただきました。難民学生との出会いを通じて、日本語習得後の採用への関心も高まってきています。

就労・自立支援

就労のためのオンライン日本語講座を展開

民間主導で受け入れられたものの、日本語を学ぶ機会のない難民に対する支援として、アフガニスタンからの退避者を対象に、就労のための日本語講座をオンラインにて提供しました。授業は難民のための日本語教育に豊富な経験を有する日本語教師が担当し、JLPT N5-N4 レベルの就労の場面で必要となる日本語習得のための授業を提供しました。

就職活動に向けた情報を提供

就職活動を予定する難民の学生等に、就職活動関連情報を SNS 等で配信しました。また、受け入れ留学生の雇用に関心をもつ企業等とのネットワーキングを進めています。2023 年度は、今年度拡大した企業とのネットワークを活かし、就職活動に関するセミナーを開催するなど、活動を拡充していきます。

シリアとアフガニスタンの学生のリユニオンと来日時オリエンテーションの様子

ウクライナ学生のリユニオンの様子

来日時オリエンテーションでの企業ボランティアとの面接演習

市民社会主導の難民受け入れの必要性と意義について発信し、
社会での理解を促進するとともに、より良い難民の受け入れの仕組みを作るための提言と発信を行いました。

国内外の会合やネットワーク団体へ参加・協力

各国の政府・団体で構成される「教育パスウェイズ・グローバルタスクフォース（Global Taskforce on Third Country Education Pathways）」のメンバーとして貢献し、2022 年 6 月にパリ高等政治学院で開催された実践者コミュニティの会合（Community of Practice）に出席の上で本事業について発信しました。加えて、同月ジュネーブで開催の難民の再定住に関する政府・国連・NGO 年次三者協議（ATCR）にも出席し、グローバルタスクフォース主催のセッションで、日本の事例を発表しました。

国内では、（特活）なんみんフォーラム、日本 UNHR-NGO 評議会（J-FUN）に参加し、J-FUN ではマルチステークホルダー・コンサルテーション（MCS）としてシンポジウム等の開催に協力しました。またアフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム（AFA）の運営に携わり、受け入れを行った身元保証人等による定期情報交換会開催に協力したほか、日本教育パスウェイズ・ネットワーク（JEPN）でも定期情報交換会開催に協力しました。

より良い受け入れに向け、公的制度や運用の改善に関して政策提言

アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム（AFA）に参加し、難民・避難民の受け入れ態勢の充実に向けた提言の策定に寄与しました。

国内外での講演、シンポジウム等、メディアを通じ新しい難民受け入れの理解を促進

教育パスウェイズに関心を寄せる企業、宗教組織、教育機関等で、月 1.2 回の講演を実施したほか、メディアにも多く取り上げていただきました。

メディア掲載実績

2022	04.19	NHK ニュース おはよう日本
	04.22	日本外国人特派員協会 / Discrimination against Refugees in Japan
	05.23	朝日新聞デジタル / 異文化ルール、将来の選択肢も説明　ウクライナからの避難学生に
	05.23	朝日新聞 / ウクライナ人学生　進む受け入れ
	08.11	読売オンライン / 日本へ避難　支援に感謝
	06.07	共同通信 / 15 私大が避難民受け入れ　ICU などウクライナから
	09.01	仙台経済界 / 官民連携でウクライナ避難者支援
	10.01	Mnet / 教育を通じたウクライナ避難民受け入れと今後の課題
	10.22	The Japan Times /　Psychological first aid helping 'Ukrainians have a future' in Japan
	10.28	NHK ネタドリ / 密着 ウクライナ避難者 半年の記録
	11.17	読売新聞 / 避難半年　ウクライナ学生たちは今
	11.19	毎日新聞 / ウクライナ人留学生、日本語学習アプリに尽力　母国避難民のため
	12.09	TBS News Dig /「父や兄弟は戦っている」「3 日に 1 回くらいしか家族と連絡が取れない」ウクライナ人留学生らを集めたレセプション ※米大使公邸で開かれる
	12.20	RBC 琉球放送 /「私は生きて何かしないといけない」母国を想うウクライナ人女性　避難から 4 か月のいまー
	12.22	WBS / ウクライナからの避難者　日本での課題　克服するには？
	12.25	朝日新聞 /「難民鎖国　それでも日本に」
2023	01.09	テレビ朝日 /「日本の新成人を見つめるウクライナの同世代…それぞれの「成人の日」」
	02.01	Techable / 記憶のスタートアップ「Monoxer」ならではのウクライナ避難民支援。学習アプリ提供から雇用創出まで
	02.17	UNHCR / 日本唯一の分析化学の専門学校で学ぶ　シリアからつながった未来への道
	02.21	産経新聞 /「領土問題に危機感を」ウクライナ人女性、日本の若者に訴え
	02.21	朝日新聞 /　マルチリンガルの IT 技術者「日本にどれだけいる？」　変わる難民像
	02.24	東京新聞 /　ウクライナ侵攻 1 年　避難した僕だからできることに集中　松戸の日本語学校に通学中　18 歳のハイチェンコさん
	02.27	NHK ニュース /　ウクライナから避難している人へ 日本語習得の無料サービス
	03.05	読売新聞 /　ウクライナ学生、想定外の避難長期化…迫る在学期限・就職支援ノウハウなし
	03.06	NHK ニュース / トルコ・シリア大地震から 1 か月 日本各地でも追悼や支援の動き
	03.19	朝日新聞 /　ウクライナから避難の学生 100 人が交流　就職・進学を前に課題共有
	03.23	読売新聞 /　ウクライナから避難　学生たちが交流集会
	03.25	毎日新聞 /　仕事や勉強、励むウクライナの若者　戦地を胸に、日本で生きる

支援のネットワーク　広がる教育パスウェイズのネットワーク

日本の中での難民・避難民への関心が高まる中、連携する教育機関は 18 大学、23 の日本語学校に拡大しました。
また、企業・個人の方からも多くのご支援をいただきました。

受け入れ大学及び日本語学校一覧

大学（18 大学・50 音順）
関西大学（大阪府）
関西外国語大学（大阪府）
関西国際大学（兵庫県）
慶應義塾大学（東京都）
国際基督教大学（東京都）
上智大学（東京都）
創価大学（東京都）
大東文化大学（埼玉県）
テンプル大学ジャパンキャンパス（東京都）
東京女子大学（東京都）
常磐大学（茨城県）
フェリス女学院大学（神奈川県）
文京学院大学（東京都）
武蔵野大学（東京都）
明治大学（東京都）
立教大学（東京都）
龍谷大学（京都府）
早稲田大学（東京都）

日本語学校（23 校）
仙台国際日本語学校（宮城県）
日本国際工科専門学校（千葉県）
船橋日本語学院（千葉県）
東京明生日本語学院（東京都）
京都民際日本語学校（京都府）
国際言語文化センター附属日本語学校（ICLC）（沖縄県）

「ウクライナ学生支援会」参加の以下の各日本語学校
カイ日本語スクール（東京都）
新宿日本語学校（東京都）
メロス言語学院（東京都）
日本語センター（京都府）
清風情報工科学院（大阪府）
コミュニカ学院（兵庫県）
神戸住吉国際日本語学校（兵庫県）
専門学校湖東カレッジ（熊本県）
ABK 学館日本語学校（東京都）
東京工学院日本語学校（東京都）
東京国際外語学院（東京都）
国際ことば学院日本語学校（静岡県）
ループインターナショナル日本語学校（大阪府）
AMA 日本語カレッジ（兵庫県）
創智国際学院（兵庫県）
倉敷外語学院（岡山県）
はなまる日本語学校（島根県）

支援団体・企業一覧

助成金
公益財団法人キワニス日本財団
真如苑
Japan ICU Foundation
ラッシュジャパン合同会社チャリティバンク

寄付金
アシャースト法律事務所
We for Afghanistan　クラウドファンディング寄付金
Airbnb Japan 株式会社
SAP ジャパン株式会社
エボニックジャパン株式会社
EMBASSY OF CANADA
国際医療福祉大学成田キャンパス
株式会社資生堂
シリア・アフガニスタンレセプション参加者一同
公益財団法人世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP）
高石ソライロマーケット
デービス・ポーク・アンド・ウオードウエル外国法事務弁護士法律事務所
一般社団法人東京キワニスクラブ
東京西南ロータリークラブ
トキワ松学園中学高等学校
長島・大野・常松法律事務所
日本キリスト教団代々木上原教会
日本聖公会聖マーガレット教会
日本聖公会東京教区聖愛教会
NPO 法人八丈島移住定住促進協議会
株式会社フレックスインターナショナル
松野川緑道
モノグサ株式会社

物品・サービス協力
Airbnb Japan 株式会社
SAP ジャパン株式会社
株式会社資生堂
在日米国大使館
公益財団法人世界宗教者平和会議日本委員会（WCRP）
ディーエルエイ・パイパー東京パートナーシップ外国法共同事業法律事務所
テンプル大学ジャパンキャンパス
東京 YMCA
長島・大野・常松法律事務所
西村あさひ法律事務所
森・濱田松本法律事務所
モリソン・フォースター法律事務所
ラッシュジャパン合同会社

※五十音順・敬称略

個人寄付

52 名　2,844,500 円
またウクライナの学生受け入れに際して実施したクラウドファンディングでは、のべ 458 名・合計 7,820,000 円のご支援をいただきました。

決算報告

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

(1) 経常収益	（単位：円）
①特定資産運用益	2,081,613
②受取補助金等	10,070,094
③受取委託費	725,500
④受取寄付金	40,148,161
⑤雑収入	1,666
経常収益計	**53,027,034**

(2) 経常費用	（単位：円）
①事業費	47,280,619
②管理経費	4,257,691
経常費用計	**51,538,310**

正味財産期末残高	**1,017,195,877**

組織概要

正式名称	一般財団法人パスウェイズ・ジャパン
英語名	Pathways Japan (PJ)
所在地	東京都千代田区神田小川町 1-8-3 The Office 神田 501 号室
代表理事	折居 徳正
設立	2021 年 7 月

役員一覧

代表理事	折居 徳正	当財団代表理事
常勤理事	石井 宏明	（特活）難民支援協会理事
理事	鈴木 真代	Social Connection for Human Rights 共同創設者
	井内 摂男	団体役員
	津田 和泉	公益社団法人役員
	長谷部 美佳	明治学院大学准教授
	根本 剛史	弁護士
	戎井 重樹	公認会計士
評議員（議長）	藤田 直介	弁護士
評議員	功能 聡子	ARUN 合同会社代表
評議員	奥野 由紀子	東京都立大学教授

米国大使主催のウクライナ学生歓迎レセプションの模様

企業インターンの学生による製品のプレゼンテーション

加盟ネットワーク等

- Global Task Force on Third Country Education Pathways
- なんみんフォーラム
- J-FUN（日本 UNHCR-NGO 評議会）
- アフガニスタン退避者受け入れコンソーシアム（AFA）
- 日本教育パスウェイズネットワーク（JEPN）

pathways.j.org　pathwaysjapanPJ　pathways_japan　pathwaysjapan

「教育を通じて難民への新しい道を拓く」活動へのご支援をお願いします。
ご支援はこちらから。

教育を通じて難民の新しい道を拓く
パスウェイズ・ジャパン
PATHWAYS JAPAN